

PPS023-12

会場:303

時間:5月26日 12:00-12:30

惑星探査における宇宙科学研究所の役割 The role of ISAS in the Japanese Exploration

中村 正人^{1*}

Masato Nakamura^{1*}

¹ 宇宙科学研究所

¹ Inst. of Space and Astronautical Science

太陽系探査科学、すなわち惑星探査は宇宙科学の一翼を担う学問分野である。太陽系探査科学は単なる博物学にとどまらず、物理的、化学的手法を駆使して太陽系内惑星の多様性を解明するロードマップを描くべきものである。

これと対立する概念として、国の政策として進める太陽系探査（言い換えれば宇宙開発）が特に月探査（将来的には火星探査）には存在するかもしれない。これは国家としての威信をかけ、また国際的な技術的な優位性を得ようとして行う活動である。しかし、これらの探査でも科学が重要な柱であることは間違いなく、国際的流れでもある。政策に主眼を置く探査においても広くコミュニティの意見をくみ上げ、意義ある科学をミッションに組み込んでいく仕組みを作ることが科学者の責務である。

日本の太陽系探査科学の現状をみると理論研究は世界的にもトップクラスと言えるかも知れない。しかし現実の探査は米国に30年以上遅れをとっている。“のぞみ”、“あかつき”と立て続けに失敗を繰り返している日本の現状は、経験不足を批判されても致し方のないところである。このことは昔のこと（太陽系が出来た頃）、遠くのこと（深宇宙）が実証的に判らない事を意味し、太陽系探査科学を進めていく上で大きな障害となっている。

このような状況の中で宇宙科学研究所の存在は重要である。宇宙科学研究所は大学共同利用の機関として、様々な宇宙理学、宇宙工学のコミュニティの意見を背景に具体的に宇宙科学プロジェクトを実行していく母体である。太陽系探査科学を宇宙科学として位置づける第一歩は、コミュニティの意見を学会レベルで纏めて、宇宙科学研究所にその実行を要求する事ではなかろうか？宇宙科学研究所は限られた資金的、人的リソースに縛られているように見えるかも知れないが、コミュニティからの強い意見により、そのリソースの幅を増大させるべく努力する事も必要であるように思われる。

惑星探査は往還に時間のかかるプロジェクトとなる。それだけに、熟慮されたプログラムを宇宙科学研究所に提示し、それを多くの他の分野からの批判にさらし、よりよいプログラムを練り上げて宇宙科学研究所に実行を迫るほどの気概が生まれる事が望まれる。

キーワード: 惑星探査

Keywords: Exploration